編集後記

今月の特集は「リハビリテーション看護」である．座談会の司会をしたり，特集の論文を読んでいるうちに，28年前にニューヨーク大学に留学した折に市立ベルビュー病院のリハビリテーション科で1か月の臨床実習を終えた看護学生に対する試験問題を手に入れたことを思いだした．かなり古いものだが，それだけに興味があると思われるので，この際，紹介して編集後記に替えたいと思う．

●リハビリテーション・ナーシング
試験問題（片麻痺の部）

クラーク夫人は脳卒中発作の6週間後に入院してきた．発病後の6週間，彼女は家で安静をとり続け，家族の看護を受けていた．入院時の所見として右上下肢の麻痺，仙骨部の小褥瘡，尿失禁がみられた．彼女は意識は清明で，医学的，看護的処置に対して協調的であった．

A．脳卒中患者にリハビリテーション看護を始める時機は次のどれがもっとも良いか
1．患者が欲したとき
2．内科的な治療が終了したとき
3．脳卒中発作が起こったとき
4．家族の準備ができたとき

B．褥瘡の予防と治療にはどれがもっとも重要か
1．患者に皮膚を清潔に保つことを教える
2．体位の変換を頻繁に行う
3．他動運動を行う
4．高カロリー食を与える

C．感情の不安定な患者を助けるもっとも良い方法はどれか
1．楽しかった過去のことを話題にする
2．未来の楽しそうなことを話題にする
3．現在起こっていることを話題にする
4．1～3のすべて

D．クラーク夫人の尿失禁をなおすにはどうしたら良いか
1．水分摂取量を1日1,000 m*l*に制限する
2．一定時間ごとに排尿させる
3．留置カテーテルを使用する
4．膀胱洗浄を行う

E．クラーク夫人が歩行訓練を開始するときに，下肢装具が必要と判定された．その理由はa～cのどれだろうか
1．支持力の補強　2．変形の予防
3．変形の矯正
a．1と2　b．2と3
c．1～3のすべて

正解：A-3，B-2，C-3，D-2，E-c

（横山　巌）

編集顧問
天児民和　大島良雄　河邨文一郎　五味重春　津山直一　土屋弘吉

編集委員
明石謙　上田敏　緒方甫　大井淑雄　大川嗣雄　千野直一　横山巌

編集同人
今田拓　江口壽榮夫　大橋正洋　小川孟　荻島秀男　奥川幸子　落合芙美子　加倉井周一　古賀唯夫　小島蓉子　近藤徹　斉藤正也　笹沼澄子　澤村誠志　高橋勇　高松鶴吉　武智秀夫　田中信行　土肥信之　土肥豊　中村隆一　奈良勲　野島元雄　野村歓　初山泰弘　福井圀彦　福田道隆　村上恵一　矢谷令子　渡辺英夫
（五十音順）

総合リハビリテーション　（第19巻　第9号）
1991年9月10日発行（毎月1回10日発行）

1部定価 1,906円（本体1,850円）
（配送料61円）
（年ぎめ予約購読料　24,420円
（本体23,709円，ただし増大号を含む）
（送料弊社負担））

発行　株式会社　医学書院
代表者　金原　優

〒113-91　東京都文京区本郷5-24-3
電話　社内案内（03）3817-5600
本誌編集室直通（03）3817-5704
（担当：佐々木・細田）
販売部直通（03）3817-5659・5660
ファクシミリ（03）3815-7802
振替口座　東京 7-96693番
印刷所　三報社印刷㈱：電話（03）3637-0005
広告申込所　㈱東広社：電話（03）3409-8803

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1991, Printed in Japan.
・本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています．
・無断で複写・転載すると，著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい．

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2013
2026/10/02 02:06:34